

2023年1月22日 礼拝説教要旨

詩編講解説教135「創造と救い」

詩編135：4～12、コロサイ1：15～17

「主はヤコブを御自分のために選び、イスラエルを御自分の宝とされた」（4節）とあります。神さまがイスラエルの民を御自分の「宝」とされたと言うのです。ここですぐに頭に浮かびます聖書の御言葉が申命記7：6～8です。

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである」

神さまがイスラエルを選ばれ、宝の民とするのは、イスラエルが特別に優れているからではありません。むしろ「どの民よりも貧弱であった」のです。それでも神さまが選ばれるのは、「あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに」と続きます。この「誓い」が「契約」ということです。

135編にも契約が言われています。「主はヤコブを御自分のために選び、イスラエルを御自分の宝とされた。わたしは確かに知った。主は大なる方、わたしたちの主は、どの神にもまさって大なる方」（4～5節）4節では、神さまがイスラエルを御自分の宝とされたこと、神さまの側の約束があります。5節では神さまはどの神にもまさって大なる方であること、これは他の神々を神としないというわたしたちの側の約束です。神さまはわたしたちを宝とされる、わたしたちは他の神を拝まない。そういう契約を結んだのです。これによってわたしたちは神さまと契約関係の中に置かれました。聖書の「旧約」「新約」という言葉にも表れていますが、聖書は言わば「契約書」です。神さまとの間に取り決め、約束をしている。そういう神さまとの契約が随所にあります。アダムとエバとの約束、善悪の知識の木の実を食べてはいけないという約束に始まり、ノアとの約束があります。虹をかけて、もう二度と洪水を起こして滅ぼすことはしないと約束された。アブラハムとの契約は、天の星を見せてあなたの子孫をこのようにすると約束された。

また8節以下にはイスラエルの民がエジプトから救い出され、約束の地カナンに導き入れられることがここに記されています。「主はエジプトの初子をことごとく、人の子も家畜の子も撃ち、エジプト中に、しるしと奇跡を送られた、ファラオとその家臣すべてに対して。主は多くの国を撃ち、強大な王らを倒された。アモリ人の王シホン、バシヤンの王オグを、カナンの王国をことごとく。彼らの領地を嗣業として、嗣業として御自分の民イスラエルに与えられた」（8～12節）ここにも神さまがモーセと結んだ契約がありました。これを「シナイ契約」と言いますが、この契約には有名な「十戒」があります。ではイスラエルはこれを守ったでしょうか。守れなかったのです。「あなたはわたしをおいて他に神があってはならない」「刻んだ像を作ってはならない」と約束したにもかかわらず、金の小牛を作ってこれを拝むことをした。そのあとイスラエルはことごとく契約を破り続けました。ですから神さまから見切りをつけられてもおかしくないのです。ところが本当に驚くべきことに神さまはこのようなわたしたちをお見捨てになられません。契約を反故にされません。どうしてでしょう。

それが詩編の中でも繰り返されております「慈しみ」(ヘセド)です。それは神さまが契約にどこまでも忠実であられることです。ここで「天において、地において、海とすべての深淵において、主は何事をも御旨のままに行われる」(6節)という部分に注目しましょう。「深淵」とは、創世記の天地創造で「闇が深淵の面にあり」(1:2)と言われる。その「深淵」です。それは混沌の極みのような、どこまでも闇の続く世界でしょう。でもたとえ深淵でも神さまは何事をも御旨のままに行われる。望むことのすべてを成し遂げられるという約束です。神さまは一度お決めになられたことは、たとえ神さまの手の届かないような混沌とした深い闇の中であっても、約束を果たされるのです。創造主であるお方だからこそこれを可能にするのです。

神さまは契約をどこまでも遂行されるために、まさに闇の世界に、深淵の深みにまで降られたのがイエス・キリストの出来事に他なりません。今日はコロサイ書を読みました。「万物は御子において造られた」(1:16)これは神さまの創造の御業が御子イエス・キリストにおいて完成するということです。神さまは創造主としてこの世界、人間をお造りになられました。でもそれは造りっぱなしではありません。お造りになられたものが壊れたなら、それを修復し、その本来の創造の目的にかなうように整え導いてくださる。そこに創造主としての責任があるのです。わたしたちがどんなに契約を破棄するようなことをしても、御子によってこれを修復し、完成へと造り変えてくださるのです。神さまの慈しみ(ヘセド)はキリストの救いを通してはっきりと現されました。

教会の信仰によれば、人間は神さまを崇めるために造られました。わたしたちが神さまとの約束を守り、神さまをほめ讃えて生きることができるように、神さまは御子においてわたしたちをもう一度新しく造り変えてくださいます。そしてそのような恵みに生かされた者は恵みに甘えるのではなく、むしろ恵みに感謝して歩む者へと変えられていくでしょう。創造の目的にかなう新しい人生がそこに備えられています。